

「光輝（かがやき）」プログラム		幼小接続期	1年生	(全 18 時間)
1年生で育成したい資質・能力				
育成したい 資質・能力	躍動する感性	①	人間味溢れる豊かな感覚	新しい環境に対して、心を動かして主体的に関わる。教師の共感的理解をもとに、一人一人が自らの感じたことや考えたことを安心して表現する。
		②	自ら学ぼうとする姿勢	思いや願いを大切にしながら学びをつくり出し、満足感や達成感を味わう。当事者意識をもって自治活動をする。
	レジリエンス	③	粘り強く取り組む力	できたことに自信をもち、さらなるステップアップを目指す。困難を乗り越える経験をする。
		④	コラボレーションする力	安心できる人間関係がつかれるように、担任教師との関係づくりをする。見えていない良さに触れて、人間関係を少しずつ広げる
		⑤	複眼的に思考する力	生活や学習の中で見つけた課題の実現に向けて、友達の考えややり方に触れて、よりよい解決へつなげる。
	横断的な知識	⑥	知識と知識を関連づけながら深く追究する力	幼児期までの学びをつなぎ、新しい環境（小学校生活）に適応する。
		⑦	論理的に問題を解決する力	

単元名	「5ねんせいさんと もっとなかよく になりたいな」
単元を通して めざす子ども像	5年生と もっと仲良くなるために自分がやりたいことや、みんなでやりたいことの実現に向けて準備を進め、それらを実行することを通して、思いや願いの実現を目指して自ら進んで取り組んだり、経験や既有知識を生かして考えたり、試行錯誤しながら最後まで粘り強く取り組んだりすることができる。

段階	I (1~2)		II (3~6)		III (7~14)		IV (15~18)		
学習課題	自分にとっての5年生の存在に気づき、もっと仲良くなりたいという思いや願いをもつ。		5年生と もっと仲良くなるために、どんなことがしたいか考える。		5年生と仲良くなるためのお楽しみ会（1・5交流）に向けて、準備を進める。		5年生とのお楽しみ会を実施しふり返る。		
育成したい 資質・能力	人間味溢れる 豊かな感覚	「5年生と もっと仲良くなりたい」という思いをもつ					もっと もっと5年生と仲良くなりたいという思いをもつ		
		想起する・発見する					生み出す		
	自ら学ぼうとする姿勢			5年生と何を一緒にしたいか進んで考える			自分たちが主体となってお楽しみ会を実施する		
				作り出す			実施する・実行する		
	粘り強く取り組む力					試行錯誤しながら、レクの内容を考える			
	コラボレーションする力			お楽しみ会の内容について話し合う		友達と協力してお楽しみ会の準備を進める		友達と協力してお楽しみ会を実施する	
				議論する		協力する・準備する		協力する	
複眼的に思考する力									
知識と知識を関連づけながら深く追究する力			既有の知識や経験をもとに考える						
論理的に問題を解決する力			関連付ける・応用する						
関連する 活動	教科		生活科	国語（話す・聞く）	図画工作、体育	国語（話す・聞く）			
	見方や考え方		身近な人々と自分との関わり	言葉の働き	感性・想像力、楽しさ・喜び	言葉の働き			
	道徳	活動	道徳資料「たのしい がっこう」を題材として、これからの学校生活への期待を膨らませて、学校の生活を楽しむために、どんなことができるか話し合った。				5年生とのお楽しみ会を振り返ることを通して、協力し合うことの大切さについて話し合った。		
		内容項目	よりよい学校生活				友情・信頼		
	道徳	活動							
		内容項目							
	特活	はたらきかけ	5年生との関わりを想起できるような場を設定することで、5年生と もっと仲良くなりたいという思いをもつことができるようにする。	今までの経験を友達と交流しながら、それらをもとに自分たちで活動を考え、決定することを促し、それらの姿を根気強く見守る。	友達と協力したり、試行錯誤したり、自ら進んで動いたりしながら、よりよいお楽しみ会にしようとする姿を賞賛する。		学習を通して「5年生と もっと仲良くなりたい」という思いは実現できたのかを、具体的にふり返る場を設定する。		
はたらきかけ									

評価方法	観察	観察	観察・インタビュー	振り返りシート
------	----	----	-----------	---------

「光輝（かがやき）」実践記録		幼小接続期	1年生	(全18時間)	
単元名		「5ねんせいさんと もっとなかよく なりたいな」			
段階	評価方法	資質能力	子どもの姿	教師の気づき	
				計画変更点・理由	有効であった手立て
I	観察	①	5年生の自分たちに対する関わりや思いに気づき、「5年生さんともっと仲良くなりたい」という思いや願いが、友達同士や教師との会話の中でも多く聞かれるようになった。		5年生の1年生に対する思いを教数ることができるよう、1年生と5年生との具体的な場面でのエピソードを共有する場を設定したこと。
II	観察	②	「どんなお楽しみ会にしようかな」「何をプレゼントするかかんがえないといけないね」「ぼくは、5年生さんに〇〇を見てほしいな」など、具体的な思いや願い、見通しをもって、「自分たちで1・5交流をつくりあげよう」という意欲的に取り組む姿勢が見られた。		5年生ともっと仲良くなるために自分がやりたいことや、みんなでやりたいことを出し合う場を設定し、それらを、意図的に分類・整理して板書することで、「1・5交流のようなお楽しみ会がしたい」「何かをプレゼントしたい」「自分の好きなことや頑張っていることを見てもらいたい」という、大きく3つの活動に整理できることを子ども達と共有した。
III	観察・インタビュー	③ ④	友達とかかわり合い、試行錯誤しながら、意欲的にお楽しみ会の準備に取り組む姿が見られた。また、教師によるインタビュー際に、「どうしてそんなことを思いついたの」という問いに対して、「幼稚園の頃にやったことがあって…」「この前の1・5交流で5年生さんがやってくれていたから…」などの、既有的知識や経験をもとに考えている発言が聞かれた。		お楽しみ会に向けて、例えば、お楽しみ会で渡すプレゼントづくりの際には、これまでの経験を生かし、友達と教え合い、助け合いながらプレゼントづくりに取り組んだり、お楽しみ会の内容を話し合う際には、友達と何度もじっくりと話し合ったり、お楽しみ会でのしっぽりのルールを考える際には、実際にやってみて考えたりする姿を期待し、時間と場所を保障し、見守りながら、必要に応じて支援した。
IV	振り返りシート	① ②	「プレゼントのメダルをかけてあげたら5年生がよろこんでくれて、うれしかったよ」「みんなで協力したから、自分たちの力でできたよ」などのめあてに対する振り返りの記述や、「またやりたい」「次にやる時は、外でできない時のことも考えておきたい」などの率直な思いの記述も見られた。	振り返りシートには文字での記述だけでなく、「仲良しレーダーに色を塗ろう（5年生とどれだけ仲良くなれたかを赤や青で色塗りする部分）」を設けることで、自分の満足度や成長が視覚的に捉えやすくすることができるようにした。	お楽しみ会後に、全体での振り返りの場をもち、子ども達が感じた率直な思いを共感的に受け止めた。